

Japan Cup における新型コロナウイルス感染拡大予防対策ガイドライン

(一社) 全日本フリースタイル BMX 連盟

(一社) 全日本フリースタイル BMX 連盟は、Japan Cup における新型コロナウイルス感染拡大予防対策として下記の通りガイドラインを示します。

1. 選手・保護者・大会関係者の注意事項

- (ア) 大会直近 2 週間の検温と行動記録を行い、主催者から求められた場合は指定された方法により速やかに提出する。
- (イ) 体調が優れない場合（発熱や風邪の症状などを含む）や、陽性者との濃厚接触者と判断された場合には欠席する。
- (ウ) マスクを着用する。ただし、人と十分な距離（少なくとも 2 m 以上）が確保できる場合には適宜マスクをはずしても良い。競技中の選手もマスクを着用しなくてよい。
- (エ) 食事の際は、向かい合って食べない、大声で喋りながら長時間かけて食べないことに注意する。
- (オ) 気温等により、熱中症の予防に努める。
厚生労働省「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイント
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_coronanettyuu.html
- (カ) 新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）をダウンロードする。
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/cocoa_00138.html
- (キ) 応援はソーシャルディスタンスを保って行う。飛沫が飛び散る大声での声援や、ハグ・肩くみなど他者と密着する行為は行わない。ただし家族はソーシャルディスタンスの対象としない。

2. 競技会について（BMX フリースタイル・パーク）

- (ア) 練習走行
 - ① 1 回の走行人数を最大 5 人とする。
 - ② 競技エリアを走行中の選手は、他選手との間の距離を 2 m 程度保つ。
- (イ) 出場待機
 - ① 1 ヒートの人数（最大 5 人）が 1 m 以上の間隔をあけて待機できる場所（待機エリア）を確保し、選手は 1 m 以上空けて待機する。
 - ② 待機エリアに消毒液を設置し、集合した選手は手指を消毒する。
 - ③ ハグ、肩くみなど他者と密着する行為は控える。
 - ④ 2 ヒート目以降の選手は、直前ヒートの 2 ラン目が始まるタイミングで集合する。（待機エリアでの密集を回避するため）

(ウ) 出走後

- ① 各自の走行ヒートが終了したら、速やかに待機エリアから退出する。
- ② 待機エリアから退出するタイミングで、マスクを着用する。

(エ) 表彰式

- ① クラス別に実施するなど密集回避に努めたスケジューリングを行う。
- ② 待機する者や表彰式を観覧する者は必ずマスクを着用し、他者と1mの間隔をとって観覧すること。ただし、表彰を受ける者は、登壇中はマスクを外しても良い。

3. 救護

- (ア) 発熱等の体調不良者が出た場合には、会場で待機させず、医療機関の受診及び自宅やホテルでの待機を促す。
- (イ) 救護にあたる際、スタッフは必ずマスクやフェイスシールドを着用する。

4. 主催者の入場者管理

- (ア) 事前登録制の来場管理等により、来場者のメールアドレスを把握する。
- (イ) ゲートで検温（非接触体温計でスタッフが検温）を行う。37度以上の場合、体調不良がないかを口頭で確認、37.5度以上で入場不可とする。
- (ウ) 入場時のマスク着用を必須とする。
- (エ) 消毒液を設置し、手指消毒を促す。
- (オ) 入場者と退場者が密集しないよう導線を工夫する。

5. 主催者の会場づくり

- (ア) 誘導スタッフの配置や導線の工夫により、密集が生まれぬよう工夫する。
- (イ) 会場内（入口以外）に1箇所以上、消毒液を設置する。
- (ウ) トイレのドア、てすりなど不特定多数が触れる場所は、1時間に1回程度、消毒液で拭く。
- (エ) 観覧スペースでは、椅子等の間隔を前後それぞれ1m設ける。
- (オ) 会場のキャパシティを超えた場合、入場制限を行う。なお会場のキャパシティは、観覧スペースにおいて1人あたり1.5㎡を基準に算出する。
- (カ) 水分補給や軽食、熱中症回避等により一時的にマスクを外すことは問題ないが、その間は他社と密接しない、大声を出さない等の配慮を求める。他者と密集した状態での飲食は避けるよう促す。
- (キ) 主催者の定める予防対策を遵守いただけない場合は、会場から退場させることができる。